

(二〇一四年度)

7 国 語 問 題 (六〇分) (この問題冊子は20ページ、三問である。)

受験についての注意

- 一、監督の指示があるまで、問題冊子を開いてはならない。
- 二、試験開始前に、監督から指示があったら、解答用紙の右上の番号が自分の受験番号と一致することを確認し、所定の欄に氏名を記入すること。次に、解答用紙の右側のミシン目にそって、きれいに折り曲げてから、受験番号と氏名が書かれた切片を切り離し、机上に置くこと。
- 三、監督から試験開始の指示があったら、この問題冊子が、右に記したページ数どおりそろっていることを確かめること。
- 四、筆記具は、HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。時計に組み込まれたアラーム機能、計算機能、辞書機能などを使用してはならない。
- 五、解答は解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで、そのマーク欄をぬりつぶすこと。その他の部分には何も書いてはならない。
- 六、マークをするとき、マーク欄からはみ出したり、白い部分を残したり、文字や番号、○や×をつけたりしてはならない。
- 七、訂正する場合は、消しゴムでいいいに消すこと。消しきずはきれいに取り除くこと。
- 八、解答用紙を折り曲げたり、破つたりしてはならない。
- 九、試験時間中に退場してはならない。
- 十、解答用紙を持ち帰ってはならない。
- 十一、問題冊子は必ず持ち帰ること。

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

「重い病であるということは、かつてその病んでいる人の生を導いていた目的地と地図とを失うことなのである。病んでいる人々は『違う考え方をすること』を学ばなければならない」。患者にとって、何らかの病気を抱えることは、治療をはじめ、それまでなかったものが生活に、人生に入ってくることを意味する。例えば、それまでなかった痛みを感じなくてはならないだけでも変化であり、それに対応するには、それまでと違う何かを受容することを余儀なくされる。つまり、医療の領域内で「患者」とならざるをえない人々にとって、その原因である病気は、医学的認識に捉えられない以外のものを、人生や生活の多様性から見て、あまりにも広範に含むことになるのである。以下、こうした患者にとっての病気を「病」と呼びたい。

こうしてみると、病気という言葉のもとで、患者と医師とが捉えているものの差異の大きさがよくわかると同時に、両者のあいだに軋轢が生じる理由も理解されるだろう。「あなたの病気は……」と医師が口にし、「私の病気は……」と患者が聞き取る²とき、両者が異なることを考えているにもかかわらず、互いに同じことを指しているつもりであれば、誤解は免れない。しかも患者側が決定的に誤ってしまったのは、病気が問題にされる場である。「病についての近代的な経験は、広く人々に理解され受けつがれた経験が、治療のための複合的な組織を含めた専門技術体系によって打ち負かされてしまうところに始まる」。打ち負かされる問題については後述するが、少なくとも現代医療は、医学を背景にした「治療のための複合的な組織を含めた専門技術体系」であり、患者が病気に直面する場合は専門技術体系の複合的組織のひとつである医療機関である。病を包括する病気が問題であるつもりで、実際に事態が起きているのは「病気」しか問題にならない場なのである。

医療機関が用意する場合は、医学的認識に把握される「病気」を扱う場である。患者が捉える病は、「病気」に切り詰められてしまう。「病気」とともに引き起こされるさまざまな心身の状況を病として把握している患者は、「病気」が語られる場について語れる場だと考える。他方、医師は病気とは「病気」であるとしか把握しないし、それについてしか語らない。この両者の認識のズレは、病気という一つの言葉で括られてしまうとき、完全に隠蔽され意識されなままになる。医師は「病気」を語り

ながら理解しない患者に苛立ち、患者は病を語りながら「病氣」しか捉えない医師に苛立つことになる。

患者の苛立ち、厳しい批判に医師側がしばしば対置する反論はこうである。医学は「科学」であり、批判は「科学的知識の集積のされ方を理解していない」。極端な場合には、医学以外の学問的営為をすべて却下するほどの主張となるが、その根拠は「科学」にある。「偏りのない客観データの集積と分析が何より大事な我々の世界」という医師の言葉は、医学が科学的方法と理論に裏づけられて「正しい」、医「科学」的真理を語る学であり、病氣に対する唯一の「正しさ」の保証であると考えていることを示している。

「不安、不信、不満」というのは、感情である。「不安」はデータ化⁴されない。身体的計測が「不安」を感じている際の発汗や体温の変化を数値化しても、それは患者の言う「不安」の表現であるとは実証できない。患者の主張は「私」が主語になる。「私が……感じている」のであって、それ以外の論拠に乏しい。したがって、誰にとつても明瞭な基準として参照することは難しい（とされてしまう）。

これに対して医師側の主張する科学は、画像や数値という、誰がどこでどう見ようとも明白に了解し理解される実証によって合理的に構成される理論である。通俗的に言えば「偏りのない客観データの集積」にもとづくのだから、「見てみる、事実だ」で済んでしまう。「真理」とは「確実な根拠に基づいて正しいと認められた事柄、偽あるいは虚偽と対立する」という定義に従えば、すでに述べたとおり「異なる証明がぶつけられないかぎり、それは『正しい』とみなされる」。医師の診療は、医学という「確実な根拠に基づいて正しいと認められた事柄」、すなわち真理にもとづいて揺るがない。患者の「不安、不信、不満」は感情論、医学的真理に対しては真偽の対象ですらない。

けれども、そうであるにもかかわらず批判の声が上がり続けるのだとすれば、「真理が約束にこたえて成果をあげる可能性への信頼が薄れて」いっているのではないかと、医学者でない私たちは問わざるをえない。真理は信頼にもとづくのだろうか。

「真理」を語る医師たちの科学的言説自体が、患者の語る感情論の言説と同じように、言語で構成された世界解釈の一つにす

ぎない——こうして「真理」をめぐる言説に新たな光を当てたのが、社会構成主義(social constructionism)である。

社会構成主義が見いだしたのは、端的に、言語が現実を指示し写し取るのではなく、現実が言語的共同作業によつて構成されるのだという言語の共同体的作用⁷である。この点に着目することで、社会構成主義は、近代科学の思考が「事実を写し取る心」(主観)と「その心に写し取られたありのままの世界」(客観的対象)との関係を構築し、⁸「ありのままの事実を表現する技法としての科学」の眞理性を成り立たせる説得技法^{レトリック}であることを暴き出した。

どういふことだろうか。医師の診断を考えてみよう。突起を持った丸い塊が画像に写っている。医師は言う、「がん」です。このとき、私たちは丸い塊が存在していて、それを指示して「がん」と呼ぶのだと思う。同時に、何の感情も意味づけもなく価値中立的に、丸い塊を「丸い塊」として眺めているつもりである。つまり、丸い塊という「事実」を写し取る心⇨主観と、丸い塊として写し取られた「事実」としての対象⇨客観の関係が成立しており、これが「ありのままの現実」を写し取っている状態なのだと考えている。

違つ、と社会構成主義は批判する。このような主観⇨客観関係の構造のもとにあつてはじめて、丸い塊が「丸い塊」というありのままの現実」として立ち上げられてくる。「画像に突起を持った丸い塊を見いだしたとき、それを「がん」と呼び、「どん」とも「ずん」とも言わない」というルールをすでに持つていて、そのルールに照らして「丸い塊」を認め「がん」と呼んだときに、「がん」が存在するようになるのである。

まず気づくのは、「がん」が「がん」と呼ばれる必然性はなくすることである。「がん」という言葉に独立した意味があるのではなく、「どん」とも「ずん」とも言わない、という「がん」以外の言葉との関係のなかではじめて意味づけられるのがわかるからである。それだけではない。私たちが「突起のある丸い塊」を画像で見つけられるだろうか。通常、発見できないのは「医学に無知な素人」だからだと思つてゐる。しかしそれは、逆に言えば、「突起のある丸い塊として見いだせるものがあるかどうか」を見いだすべき対象物として画像を認識する「女人のまなざし」⁹がなければ、つくりだされない対象だということである。がんは「がん」でないのはおろか、「突起がある」のでも「丸い」のでも「塊」ですらない、そこに存在してもいいと言へる。医師がそれ

を見いだすのは、承認されたルールに従い、ルールに則って対象を構成するよう、教育されるからである。言い換えれば、医学を学び医学のルールを体得した者でなければ見いだせない「現実」は、「ありのままの現実」ではなく「医学共同体における現実」として構成されているのである。

(吉田謙二「現代哲学の真理論」)

問一 傍線部1の意味としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 「病」には医学的認識による以外のものが含まれることを知る。
- b 治療を受けたり薬を飲んだりして病気に対処する行為をおこなう。
- c 原因となる病気と人生における「病」との違いについて意識する。
- d 「病」をかかえる者としてのあたらしい生活習慣や生きかたを学ぶ。

問二 傍線部2の意味としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 医師の言う患者の「病気」を、患者が医学的な「病気」のことだと思ってしまう。
- b 医師の言う医学的な「病気」を、患者が自分の「病気」のことだと思ってしまう。
- c 医師の言う医学的な「病気」を、患者が自分の「病」と同一視してしまう。
- d 医師の言う患者の「病気」を、患者が自分の「病」のことだと把握できなくなる。

問三 傍線部3の中の「事態」の意味としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 「病」への誤解から医師と患者の双方が苛立ってしまう。
- b 医師と患者の間での認識の差異が気付かれなくなる。
- c 「病気」と「病」との本質的な意味の違いが露呈する。
- d 医師と患者の間での「病」への認識のズレが生じる。

問四 傍線部4の中の「データ化されない」理由としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 画像化や数値化されたデータとして集積できないから。
- b 主観的な感情でしかなく客観的基準が明白でないから。
- c 数値化されたとしてもその真偽が実証できないから。
- d 医学的真理観から見れば真偽の対象にならないから。

問五 傍線部5の中の「事実だ」の意味としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 科学的な構成によって実証性を持った理論である。
- b 偏りのない客観データの集積として提示されている。
- c 確実な根拠によって正しいと認められる論証である。
- d だれにでも理解できる明証性を持った現実である。

問六 傍線部6の疑問はどのような見解に対して向けられているか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 科学的真理は、その正しさへの私たちの信頼とは無関係に真理である。
- b 科学的言説は、私たちがそれを信頼するか否かにかかわらず成果をあげる。
- c 科学的真理は、私たちの不安のような感情論のみに左右されはしない。
- d 科学的言説は、それに対する私たちの信頼性がなければ成立し得ない。

問七 傍線部7の意味としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 特定の共同体に通用する言語が、その共同体にとっての現実を作る。
- b 言語が、共同体に共有される世界についての一つの解釈を提示する。
- c 言語を使った共同作業によって、ありのままの現実が見てとられる。
- d 言語を共有する人々は、共通の世界や事実を理解することができる。

問八 傍線部8の意味としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 科学がありのままの現実を正しく表す技法であることを証明するような思考である。
- b 科学がありのままの現実を表す技法だという解釈を正当化するための方法である。
- c 科学によって表現されていることが真理なのだと認識するために必要な技法である。
- d 科学によって表現されている現実が真の事実だと解釈しているような見方である。

問九 波線部a～dで、文脈上での意味が他と異なるものを一つ選べ。

問十 傍線部9の意味として適切でないものを次の中から一つ選べ。

- a 医学のルールで対象を現実として構成するように教育されたまなざし。
- b 突起のある丸い塊としてのがんを見つけようとする意識的なまなざし。
- c 体得した医学共同体のルールにのっとって画像を認識するまなざし。
- d がんが突起のある丸い塊であることを画像で見つける熟練のまなざし。

問十一 本文中での「社会構成主義」の主張として適切でないものを次の中から一つ選べ。

- a 現実と言語によって構成される多様なものである。
- b 人間は世界の現実を価値中立的には把握できない。
- c 共同的なルールを知らなければ存在は理解できない。
- d 「ありのままの現実」というようなものは存在しない。
- e 近代の科学的言説とは一つの作られた世界観である。

次の文章を読んで、後の問に答えよ。なお、句読点は適宜補った。

蓋し世の中の事は其の極めて低き処の者をもて其の弊を云ひ其の害を述ぶる時は、物として善良なるものははべらぬぞかし。火は人間に必用なるものなれども、世の中の広き人間の衆き中にはこの火の爲めに火傷をなす人あり、衣服を焦せる人あり、家を焚き貨財をやき人を焚き殺すなど其の災害は大なりと云ふべし。然れども人間は其の災害の多きを見て火を廃さんと云ふものはあらず。蓋し火の人生に必用にして、其の災害は人の不用心か或は其の器の全からぬによることを知ればなり。男女同権の理も此の如きものにして、今日我邦のありさまにて考ふれば、或部分に於ては利少なくて害の多き処もあるべし。或は全く害のみを見る部分もはべりなんか。然れども只に其の部分の害のみを見て男女同権の理の天に悖り人に背くものと定むることは能はざるべし。試に思ひ給へかし。女の権利振ひて害あるは一部分にはべらずや。今の男の権利の盛んなるが爲めに弊害のあらはるるは社会の全き部分にかかりたるものにはべるぞかし。今この全き部分の弊害を除かんとするに当りて、僅かに一部分の害を避け躊躇なしはべるべきや。果断の心に富みたる男らにしては似合はしからぬ説と申すべし。今夫れ世の論者てふ男らの欲し望める国会と云へるものは果して完全無欠の者にはべるや。立憲政体と申すものが無上極度の制度にてはべるや。想ふにこれとても古き政治にくらぶれば稍善良なりと申せる迄の事にて、文明開化の極点よりながめはべりなば、いとも低く下れるものにやはべらん。然れば男女の同権も今日の我邦に行ひ始めなば、或家には夫婦喧嘩も起りぬべし、俄に離縁を乞ふの婦も出来ぬべし、喧嘩の爲めにランプコップの毀物もあまたあるべし、里帰りの往返に車代も嵩むべし、甚しきは夫を裁判に訴へ或は夫を殺す程の騒動も一時は起りなんか。然れど世の中一般にかくの如くなるべからず。次第に権利の平均を得るに至らば、男女相親しみ夫婦相愛するの真情は漸く深くして真正の愛情を得るに至りはべらん。妾今試に世の自由を愛し民権を重んずるの諸君に問ん。君等は社会の改良を欲し給へり、人間の進歩を謀り給へり、而して何とてこの男女同権の説のみに至りては守旧頑固の党に結合なし給ふぞと。

己の欲せざることは人に施すことなかれとは赤黒の聖人の教なり。己の欲することを人に施せとは西洋聖教の旨にして、仁

恕じよの心をもて人に交はるを教となすことは東西ともに符節を合はせたるが如し。仁恕とは人をあはれみおもひやるの心なり。人たるものは男女にかぎらず一日この心なければ禽獸きんじゆうに近きものなり。然れば男たるものの忌み嫌きらへることは女にても好き欲しぬるものにあらず。女の好き欲しぬることは男も亦た忌み嫌はざるべきの理にて其の好悪は均しかるべければ、男の方にて忌みきらへることを強ひて女に施さんとするは甚く心なき業にして、人の道を知らざるものにやはべらんかし。今茲こゝに男に向ひて、汝おんみは汝の権利を何とおもひ給ふにやと問はば、必ず答へて申さん、我の権利は之を貰くわいび重んずること金銀珠玉の如しと。然らば隣家の主人しゆじんの其の権利を重んずるは如何あらんと問ひなば、其は我と同じ様に其の権利を重んじ候はんと答ふるなるべし。夫れ權利と申するものは斯くも自分には貰くわいみ重んずるものにはべらずや。又他人が其權利を重んずることも推して知るべきことには候はずや。然るに女の權利のみに至りては貰くわいみ重んずるべからず、否女いなが自分にも貰くわいみ重んずらずとしてこれを願みざるはそも何事ぞや。仮りに此等こゝの心なき男らをして女の地位にあらしめなば、如何なる心を以て男に對しなんか。実に其の程の極めがたき人々なりと申さんのみ。蓋し我邦の女には古来の慣習によりて已に權利のあることを知らず男の爲すまま云ふままに従ひて其の虐使を耐ふるありさまなれば、妾めかけが斯く筆を禿らし口を酸くなして論ふとも、さまざまに感覺をも動さざる女も或はこれあるべしと雖も、男が其れを以て女には權利を与ふべからずとの口実になすべき理ははべらぬぞかし。今ここに人の所有の田地を横領なしぬるものあり。其の横領なしぬるは年久しくして何の世に斯くせられしや其の所有の主も知らずして年を経にけり。想ふに其の横領せられぬる頃は其の所有主幼く弱かりしゆえに、何時となく強きものに取られぬる事にはありけん。然るに其の田地の吟味の世に明らかになりて、所有主の物たる証もあらはれぬ。此時にあたりては、其の横領なしぬる者は良心ある者ならば自ら恥ぢてこれを返へすべき筈なり。然るを其の者情剛く恥を知らずして其の横領せし田地を返へさざりせば、世の人これを何とか云はん。我邦にて男が女に對するありさまはまた此の如し。然れば仮令女たからの古き習慣におははれて已に權利あることを知らずとも、男においてこれを知らば速にこれをかへし与ふべきは理の当然なり。然るを男たるものが女の得知らぬを幸ひとしてこれを奪ひ居るものならば、其の恥なきも亦た甚しきにはべらずや。且つ男は常に曰へらく女は智なし学なしと。仮りに此言に従ひなば、男の才学は今日においては女にまさりたるものにはべるべきか。若し然らば男

は女に先き立ちて同権の理も知り得べき筈なり。婦人の境界きょうがいを想ひやり得べき筈なり。已に其の理を知り得たるからは一日も猶予なく其の理のまま決行なすべき筈なるに、斯くも因循なし居れるはそもそも如何なる心なるらん。蓋し男子には仁恕にじょてふ美德なきにや。おのれ仁恕の美德なくして人に柔順の婦徳のみを責むるは苛酷かこくの甚しきものにぞはべる。然れど男おとこらは是こゝに至りて自ら卑ひうして、おのれらは才学なくして同権の理も考へ得ずとの逃げ口上をなすぞならば、妾めかけも亦た夫等それらの心なく魂たまなき男らに向ふて述ぶべき事もはべらずかし。

(中島湘煙「同胞姉妹に告ぐ」)

〔注〕 必用…必要。

貨財…財産。

境界…境涯。

問一 傍線部1について、「此の如きものにして」とはどういうことか。次の中からもつとも適切なものを一つ選べ。

- a ある物ものがもつ欠点をあげつらつていて、その利点を見失うことになるということ。
- b ある物ものがもつ利点を過小評価すると、思わぬしつぺ返しを受けるということ。
- c ある物ものがもつ害に鈍感であると、より大きな害を被りやすいということ。
- d ある物ものがもつ益を求めつづけていると、その物の全体が把握しにくくなるということ。

問二 傍線部2について、筆者がこのように考えるのはなぜか。その理由としてもっとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a 女の権利はまだ認められていないが、男の権利は充分に認められて進展しているから。
- b 女の権利がもたらす害は一部分にすぎないが、男の権利がもたらす害は社会全般にかかわっているから。
- c 女の権利がもたらす害を指摘することで、男の権利を擁護しているから。
- d 女の権利を一部分認めるとすることで、男女同権を実現させたと男が思っているから。

問三 傍線部3について、筆者がこのように述べるのはなぜか。その理由としてもっとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a これまでの文化と明治の文化の融合という観点からすると、国会も立憲政体もまだ未熟なものと考えられるから。
- b 社会が進化を続けても完成ということはありえないので、国会や立憲政体は一応の到達点と考えられるから。
- c これまでの政治の形態と比較すると、国会や立憲政体は格段に進化したものと考えられるから。
- d 社会が進化してでき上がる理想的な状態と比べると、国会も立憲政体も不完全なものと考えられるから。

問四 傍線部4「赤島の聖人」とは誰か。次の中から該当するものを一つ選べ。

- a 天帝
- b 堯
- c 孔子
- d 孟子
- e 老子

問五 傍線部5について、筆者がこのように主張するのはなぜか。その理由としてもっとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a 男も女も等しく仁慈という精神性をもっているから。
- b 男が好まないものは女も同様に好まないものであるから。
- c 男も女も東洋と西洋を問わず礼節を尊ぶ存在であるから。
- d 男は女よりも禽獣に近い性質を有しているから。

問六 傍線部6「此等の心なき男ら」とは、どういう「男ら」か。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 自分の権利を他の男の権利よりも尊び、女の権利については関心をもたない男たち。
- b 女の権利の必要性には理解を示すものの、自分たちの権利が脅されるのを恐れて口をつぐんでいる男たち。
- c 自分や他の男にはその権利を尊び、女に対しては女自身が権利を尊んでいないとして女の権利を認めない男たち。
- d 女の権利の拡張はまだ時期尚早と考え、女が古来の慣習を破るときに女の権利の拡張を認めようとする男たち。

問七 傍線部7について、筆者がこのように考えるのはなぜか。その理由としてもっとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a 女はこれまでのならわしに従ってきたため、女に権利があること自体に気づいていないから。
- b 女は男に従うようにされてきたので、伝統的なきざりや打ち破る力をもっていないから。
- c 女は女の地位に甘んじて暮らしてきたため、批評する精神が育たなかったから。
- d 女は自分が尊ばれる歴史をもたなかったため、自分が尊ばれることまどってしまっから。

問八 傍線部8について、「此の如し」とはどういうことか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a その土地を横領したものがその行為を反省した後は、その土地は、もとの所有者に返されることが多いこと。
- b その土地を横領されたところは弱い立場であったが、横領した人の非が明らかになった後はもとの所有者が強くなること。

c その土地が横領されたものであるとはっきりしたにもかかわらず、もとの所有者が行動を起こさないこと。

d その土地が横領したものであると判明しても、横領した人がもとの所有者に土地を返却しないこと。

問九 傍線部9「心なく魂なき男」とは、どういう男なのか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a 意志薄弱でなさない男

b 誠実さがなく性根の腐った男

c 消極的で影の薄い男

d 思慮分別に欠けた野蠻な男

次の文章を読み、後の問に答えよ。

「魔術から科学へ」というテーマがしばしば歴史家や人類学者の議論となる。魔術から科学が生まれたかどうかという問題である。

¹ 私は魔術から直線的に科学が生まれて来たとは考えない。所詮それらは一方は不可思議なものを求め、他方は法則性を求めるという異なった欲求の体系化されたものであって、必ずしも競合するものではなく、同一人の心のなかにも、一つの時代、一つの場所においても共存し得たものである。

日食のように、魔術的な天文の扱う対象が科学としての暦学に、だんだん席をゆずつてゆく、という歴史上の地域協定の関係はある。しかしその間に親子関係は存在しない。

² 西洋ではギリシャの頃から法則性志向という奇妙な信仰が幅を利かして、法則に合わない現象は切り棄ててゆく、という奇癖があった。アリストテレス科学では、天は永久不変の法則に従うという強固な信念があり、したがって彗星や新星は地上の空気や火の層のところに起こったつまらない現象だ、というわけであまり注意が払われなかった。ところが中国文化圏では法則性を求める暦学と天変を記録する天文との両者があり、天体現象はどちらかに分類される。戦後、かに星雲から電波が出ていることがわかった。その場所は中国や日本の天文記録で一〇五四年に客星(新星)があらわれたとされている場所らしい。そこで現在では新星のあとから電波が出ているのだ、という定説となった。このような記録は、もちろん近代科学の目的のために観測されたのではなく、中国文化圏に天文という学問伝統が永く続いていたから記録されたのである。

たとえていえば、西洋では天体観測や自然現象の整理箱が合法則性という一つの箱しかなく、それに合わないデータが観測の網にかかっても、気づかれないか、無視されるか、あるいは棄てさられてしまう。ところが中国文化圏には法則性と天変の二つの整理箱があり、日食など新しい観測報告が来た時、それがどうにも法則性で説明できなければ、天変の箱に入れて整理すればよい。実際には、ふつう天文と暦という二つの箱は相反目する二つのグループのそれぞれの縄張りのものではなく、太

史令、陰陽頭の下に、⁴一つの役所で双方の箱を管理していた。月の運行がどうも異常で説明できないと思えば、「月、行を失う」として、さっさと天変の箱にそのデータを入れてしまおう。金星が月の面上に現われるという今日では考えにくい現象も、天変として記録されている。

そこには、西洋におけるような天体は必ず唯一の法則に従わねばならないという強烈な信仰はない。天体現象が法則に従わないのは、法則に不備があるのではなくて、「天行不齊」といって、天が異常で気まぐれに動くのかもしれない、と考える。

⁶予測に合わないのはわれわれが悪いのではない、天が悪いんだ、というのでは科学は成り立たない。しかし、考えてみれば、西洋の唯一法則性というのは単なる一つの信仰にすぎないのであって、絶対正しいという保証があるわけではない。天に自由ありとすれば、天変が起り得てもよいはずである。ニュートン力学に従わないことがあってもよいはずである。

しかし現実の歴史の上では、西洋のこの法則性信仰が有効に機能して、近代科学を産み出した。西洋は、法則性という一つの箱に頑固に固執した。そして、その箱に入らない変則性があまりに多くなると、古い箱を棄てて新しい収容力の大きい箱を求める。これが科学革命である。ニュートンの箱よりもより大きいアインシュタインの箱を求める、ということが絶えず行なわれてきたのである。

ところが中国系天文学の場合は、法則性の箱にうまく入らなければ、いくつか他の箱を設けて分類整理すれば、それで事足りりとする態度があつた。したがって、⁷唯一絶対的法則を求めて、分析的追求に徹する迫力に欠ける半面、天文の伝統が永く続いて、膨大な天変記録の累積を見た。中国系の学問は、因果律による法則的^{しよ}追求よりも、データの蒐集と分類という博物的方法を主とする。そして近代科学のように、どうしても自分たちの法則に従わないものは学問ではないとして排除し排斥するという排他性はなく、天文と暦学を共存させ、はたまたアカデミックな^{しよ}經典医学と民間俗信的医療とを共存させ、それぞれ分類して所を得しめる、という包容力があつた。

(中山茂「日本の天文学」より)

〔注〕 太史令…中国で国の記録をつかさどった役所(太史)の長。

陰陽頭…日本で天文や暦をつかさどった役所(陰陽寮)の長。

問一 傍線部1で、「私は魔術から直線的に科学が生まれて来たとは考えない」と著者が言うのはなぜか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 魔術と科学は、それぞれ異なった欲求から生じたものであり、互いに先後関係にはないから。
- b 魔術と科学は、体系が本質的に異なり、魔術の体系には科学を生む法則性が欠けているから。
- c 魔術と科学は、後者の法則性が前者の魔術性を圧倒するに至る複雑な歴史があり、単純な過程ではないから。
- d 魔術と科学は、それぞれの扱う対象が、魔術的なものとそれ以外として最初から分かれており、互いに交わらないから。

問二 傍線部2のように、西洋の「法則性志向」を「奇妙な信仰」、「奇癖」と著者が呼ぶのはなぜか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a その考え方が、ギリシャ神話やキリスト教に基づく強固な信念から生じていて、西洋の宗教の信者以外からは理解されないから。
- b その考え方が、ギリシャ神話やキリスト教の信仰とは異なるもので、西洋の宗教の伝統からしても理解されないから。
- c その考え方が、信仰としてみても一般の宗教の信仰とは異なる様式を持ち、宗教というより、単なる変った癖のようなものだから。
- d その考え方が、学問というより、むしろ宗教の信仰とみることができると程に強固な信念となって、広く支持され、伝統となっているから。

問三 傍線部3で、「それに合わないデータが観測の網にかかっても、気づかれないか、無視されるか、あるいは棄てさられてしまう」のはなぜか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a 合わないデータは、別の法則に基づいたデータであるので、別のデータとして記録すべきだと考えられたから。

b 合わないデータは、法則に基づいていけば生じないはずのデータであるので、記録するに値しないと考えられたから。

c 合わないデータは、観測精度自体に関するデータであり、観測対象自体のデータとしては記録すべきではないと考えられたから。

d 合わないデータは、法則への信頼性を失わせかねないデータであるので、記録すると問題があると考えられたから。

問四 傍線部4の「一つの役所で双方の箱を管理していた」の意味としてもっとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

a 法則性を追求する立場と、法則性を追求せずに単に異常として済ませる立場の両方が、一つの役所の中で矛盾もなしに共存し、それぞれ記録を保持していた。

b 法則性を追求する立場と、記録自体を重視する立場は、一つの役所の中での協力が難しく、その結果、それぞれが別々に記録を保持していた。

c 天文の記録者と、暦の記録者の両方が、一つの役所の中で特に反目することもなく、双方で一つの現象を記録して保持していた。

d 天文の記録と、暦の記録が、それぞれ互いに交わって混乱しないよう、一つの役所の中で両方を厳しく区別して、記録を保持していた。

問五 傍線部5の「今日では考えにくい現象も、天変として記録されている」とは、どういうことか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a 現代の天文学・物理学などよりも、当時の学問の枠組みの方がむしろ説明しやすい現象もかつては存在し、それは天変という記録として残っていることで判明する。

b 現代の天文学・物理学などではもはや学問の対象とすることはまずない現象も、当時は天変という分類を与えて記録したので、現代もその現象を知ることができる。

c 現代の天文学・物理学などに基づくと実際にはまず生じないだろうと思われる現象であるので、これらの天変とされた記録の信頼性には疑問がある。

d 現代の天文学・物理学などでは説明が難しい現象であるが、当時は、説明できるか否かとは別に、とりあえず天変として記録に留めておくという姿勢があったことが分かる。

問六 傍線部6の「予測に合わないのはわれわれが悪いのではない、天が悪いんだ、というのでは科学は成り立たない」のはなぜか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a 予測とデータとの不一致は、天の運行に問題があるとする立場から見れば、その究明は科学の領域ではないから。

b 予測とデータとの不一致は、予測自体が誤っていることの証拠であると考えるのが科学的な態度であるから。

c 予測とデータとの不一致は、それ自体を忠実に記録するのが科学的な態度であり、他に責任を負わせる事で解決すべきではないから。

d 予測とデータとの不一致は、どんなに科学が進んでも生じ得るものであり、全ての予測を的中させるのが科学の目的ではないから。

問七 傍線部7の「唯一絶対的法則を求めて、分析的追求に徹すること」で、どのような効果があったか。次の中から、この文章にもっとも適合するものをつ選べ。

a 法則に合致しない過去の天文現象の記録を徹底的に追求するので、博物学的方法をあわせて用いることで、理論の発展を過去のデータを用いて検証することが可能となった。

b 因果律による法則的追求を徹底した結果、絶対的なものへの信仰が排斥され、唯一法則性への信仰が棄て去られる科学革命を経て、近代科学が誕生した。

c 因果律による法則的追求を徹底して、法則に従わないものを排除した結果、何がその法則では説明できない変則であるかが明確になり、ついには法則自体を書き替えるに至った。

d 法則に従わないデータに対する法則的追求を徹底した結果、魔術的な信仰が排斥され、科学的な学問体系を確立する原動力となった。